



昭和53年 9・12月定例会 11月臨時会から

九月定例会

昭和五十三年第五回定例会は九月二十七日から十月四日までの会期八日間をもって行なわれ、昭和五十三年度小浜市一般会計補正予算外特別二会計補正予算、小浜市簡易水道設置条例の一部改正外条例の制定及び一部改正五件など市長より提案の議案十一件をそれぞれ原案どおり可決いたしました。

十一月臨時会

昭和五十三年第六回臨時市議会は十一月二十七日招集され、会期を一日と決定、市長より提案の今富小学校増築のための補正予算を原案どおり可決し閉会いたしました。

請願・陳情

請願1件 陳情6件 を採択

- ◎請願第七号 市道森川線の舗装について(森川線道路舗装促進委員会代表委員 竹林 武夫外一七五名)
- ◎陳情第八号 小浜中学校第二体育館建設について(小浜中学校校長 吉田品弘外七名)
- ◎陳情第九号 園場整備事業(再整備)の援助について(小浜市加土地改良事業共同施行代表者 松井弘外十七名)
- ◎陳情第十号 今富小学校体育館新築について(今富地区区長 池田昭三外六名)
- ◎陳情第十一号 水泳プール建設について(松永地区区長 池野喜治郎外十二名)
- ◎請願第五号 中大谷部落内道路の拡幅について(大谷区

条例

- ◎口田縄、新滝が簡水給水区に
- ◎口田縄、新滝を給水区に加えるため小浜市水道事業設置条例の一部改正が可決されました。
- ◎小浜市立小学校図書、備品等整備基金設置される。

予算

九月定例会において可決された補正予算は二億六千四百一十七万五千円で宮川、口田保育所の増改築に約二千六百万円を投じる他主なもの道路、橋梁、河川都市下水路の整備と勤労者の生活安定資金が増額され、公共事業の施工促進と生活安定への補助、小浜地区が中小企業庁より商業近代化地域計画策定対象地域の指定を受け商工会議所が進めている商業近代化マスタープランづくりのための地域計画策定事業補助金などが補正されています。

委員会の動き

昭和五十四年は国際児童年にあたり、これを記念して子供は世界の宝。明日の世界の子供たちを手で育てようというテーマで大蔵省島崎固有財産課長が福井県、滋賀県、京都府において国際児童博覧会を開催するという私案を発表した。

わが国の元号は、大化、大宝以来約一三〇〇年の長きにわたって国民の間に着定しているもので、戦後、その法的根拠がなくなり、国民の間には慣習として広く国民の間で使用されており、総理府の行った世論調査でも多くが元号の存続に賛成多数で可決されました。

第三次全国総合開発計画に組み入れられて以来しばらく動きのなかった新幹線も昨年十月、政府の新幹線整備関係会議でようやく具体的な実施計画がきまり着工へのゴーサインが出されました。これに伴い運輸省から環境影響評価の指針が示されており、この指針に基づき鉄道建設公団では関係する地域の開通後における影響など細かい点のチェックを行ない、これらに基づきすれば地方公共団体への協議、運輸大臣への実施計画の認可申請という手順となりますが、現在見通しでは今年中には地方公共団体への協議がありルートが決定される見込みです。

懸案事項

創設調査がつかうことが明らかとなった国立少年自然の家は五十四年度は現地調査による基本配置案の作成が行なわれ、五十五年度以降その基本計画に基づき敷地造成、これと並行しての実施設計という段階を経て本工事の着工となり五十八年度一部開所、五十九年度にはすべて完成する予定です。

市長より提案されたものは昭和五十三年度小浜市一般会計補正予算外各特別会計補正予算、小浜市一般職の職員の給与に関する条例の一部改正外条例の一部改正三件など十四件を原案どおり可決いたしました。

この議会において皆さま方から提出された陳情は別記三件でいずれも採択となりました。

本市在住の諸外国人も健康で

市政と 取り組む 常任委員会

歩みと 展望

日本海時代の実現を目ざし努力

将来を見つめつつ昭和五十四年の新春を迎え、市民各位の弥栄と平和を念じながら総務常任委員会のこの一年の歩みを振り返らせてみよう。

甚日本の僻地環境にあつて「青年に夢と希望」「壮年に生きがい」「老年寄りには楽しみを」の本市基本施策をいかに進めていくのか、不況続きの中で市民の負担をあまり求めたてはならないし、借金を持たせてはならない、けれど市民の要望は大きくふくらんでいる。

議会で採択された問題の中でも軌道に乗れない私立高校等の件もある。そんな中で外港計画、新幹線問題、小浜線電化、それらについてきた児童福祉構想に飛びつき、強力な波状的陳情に取り組んでいる。めまぐるしい現状の小浜市である。

小浜市将来の都市計画構想はコンサルタントに委託、青写真もできつつある中で総務常任委員会は、私立高校誘致、新幹線小浜駅設置に伴う駅前開発計画について、山梨県都留市では都留文化大学を、栃木県小山市では新幹線の駅及び駅前の都市計画の研修を行なった。いずれも立地条件においても環境的にも歴史的見地からも、小浜市と雲泥の相違をみると、この問題の前途にはかなり知れぬ難関があることを覚悟して帰ってきたのであります。内では、総務常任委員会本来の役割を通して過去一年の行政効果を検討しつつ市民の需要にこたへて健全財政を確立し、外は前向きな姿勢で夢の実現、国際児童博の誘致に努力しなくてはならない。

野球場の建設の見通しは明るい、新幹線問題も具体的段階にきた。小浜市が僻地環境を脱することができるとはチャンスを見

市民連帯活動の場を

大層な給水の増加収入の期待をもちろんであるが、施設の利用普及・維持管理にため五十四年度の検討が重要な課題となっております。

行政の責任と指導が重要に

人間味ある豊かな人づくり社会づくりを



現地視察中の建設常任委員会

行動的に努力することは議会の使命であり、地方自治体の経済社会を安定させ、家計や企業の先行きに対する不透明感をぬぐうことができると信ずる。しかしながら財政破綻だけは避けねばならぬことを肝に銘じ、全委員慎重なる活動を期しているところであります。

産業経済常任委員会の課題

漁業関係について

保健行政については過去四年間に在宅身障者の収容施設である有愛園、障害者の収容施設で母子の子などが建設され、また母子福祉事業の母子医療の給付制度(無料)の実施、一人暮らし老人の福祉電話の設置、また戦争がなかったら夫が健在であろうと思われれる妻への金婚式の実施等、施設面、事業面とも充実がなされてきたが、今後においては老人福祉センターの建設、在宅老人の心の通う激動的な事業を実施するとか、次第に広まって来た手話サークルのように市民のあたたかい理解と結果が必要となってくるボランティア精神のな善意の輪を推進さす事業を増強すべきである。

教育民生常任委員会

都市計画に基づく五十三年度公共的投資は、公園事業は第一次完了をしたもの、児童公園十三カ所計画のうち五カ所完了のみで、なお一そう増加に努力すべきであり、総合的な生活環境向上と健康的で明るい都市づくり、都市幹線下水路事業、街路事業が着々と進められているのが見受けられる。

建設常任委員会

農林関係について

漁業関係について

衛生行政については、念願であったところの村部のごみ収集が実現できたが、今度は週二回の収集が実施されるよう委員回として研究せねばならない。また昨年設立された小浜市健康づくり協議会への指導育成強化をはかり、市民の保健衛生向上を目ざすべきであらう。

委員 藤田 務、池田勲右衛門、今島 寿夫、お多に清重、山鼻 至誠

副委員長 伊勢謙次郎

特別に、(一)多田川改修、(二)湯岡橋拡張、(三)国道一六二号線口田堀地係ネットワーク改良、(四)堅海陸道早期着工、(五)小浜三方線局改良、(六)砂防河川の整備促進は国県事業にタイプアップし、人間の重点課題となっている。人間生活に不可欠な水道事業については、第一期拡張工事が完了し豊富な給水は管末までを満たし、対前年十七%の増給水を見込み、顕著な実績を上げています。対応する負債も減価償却費、動力費等営業外費用の増大で今後

昭和三十九年度より実施された水田利用再編対策は農政の大きな転換と農家には生産意欲の喪失、経済に多くの犠牲を与えたものであります。これが対策に果、市で減反、転作による減取補償を中心に一定の措置を実施したところで、昭和五十四年度政府の予想される方針は前年より一割程度減反増が見込まれ、なおきびしいものがあります。昭和五十三年度の経験、実態を省み、これ以上

さらには昭和五十三年度より進められていた上根来産産団地肉用牛生産組合、五〇〇頭取用は三月完成、小浜市の僻地集落内での画期的なモデル事業として大きな期待が課せられると同時に、事業の運営についても組合は当然しながら行政の責任が指すところと大きなものがあります。

衛生行政については、念願であったところの村部のごみ収集が実現できたが、今度は週二回の収集が実施されるよう委員回として研究せねばならない。また昨年設立された小浜市健康づくり協議会への指導育成強化をはかり、市民の保健衛生向上を目ざすべきであらう。

副委員長 深谷 嘉勝、委員 池尾 正雄、松井 正一、藤田 清志